

令和6年度 愛知県栄養教諭研究大会

令和6年8月20日（火）ウィルあいちにて研究大会が開催されました。

開会行事

愛知県教育委員会 保健体育課 課長 祖父江達夫様にお越しいただき、お言葉を頂戴しました。



地区別研究発表

中島地区（一宮市栄養教諭研究会）

「魚のよさに気づき、自ら食べる子の育成」

—小学校5年生「和食給食」の実践を通して—

給食の様子をみると、魚料理の残食が多く、魚料理の残食率は1か月平均して13.6%であった。そこで、教科等と関連した食に関する指導において、魚に関する体験活動や学んだことを伝え合う場を設けるとともに、魚料理を取り入れた和食給食を定期的に提供して魚のよさを給食に関連させて指導した。その結果、魚料理を苦手と答える児童が減少し、和食給食の魚料理の残食率は7.9%に低下するなど自ら食べる児童の姿が多く見られるようになった。

指導助言者

瀬戸市立にじの丘小学校

栄養教諭 杉野由起子 先生

東浦町立北部中学校

栄養教諭 小田 敦子 先生

研究発表、質疑応答後、「魚のよさとは何か」「自ら食べるとは、子どものどのような姿をみとればよいか」という点について、グループに分かれて協議を行いました。各グループからは以下のような意見がありました。

- ・ 「よさ」が抽象的なので、(おいしさ)や(栄養)など焦点を絞って掘り下げると、評価がより明確な取組になったのではないか。
- ・ 「自ら食べる」は、人によってレベルが違うので、同じ料理で比較する、個人でどれだけ食べられたのかを評価すると変容が分かりやすいのではないか。



協議後に、指導助言の先生方からは以下のご指導がありました。

子どもの疑問から実践を進め、最後は子どもに返すような実践の形式だとよい。また、研究を広げすぎると、評価できないので、焦点を絞って実践する。実践後も改善が見られなかった子に焦点を当てて記録に残していく。日ごろから子どもをよく観察することが大切である。教科等と給食をどう繋げると効果的か活用方法を考えてほしい。

研究発表と分科会を通して、今後学校での食育に生かしていきたいという感想が多くありました。

教科で関わる場合にはしっかりと教科のねらいに沿った指導が必要で、給食の時間は弾力的に使えるため、教科のねらいや指導の時期を理解したうえで、給食の時間を活用し指導を行っていきたい。

指導の時期、順番を考えると効果的、広げすぎず欲張らず焦点を絞ることが大切だと理解できた。そして教科、給食をつなげるのが私たちの役割でその力をもっとつけていかなければならない。そのために、もう一度「食に関する指導の手引」を読み込み、生徒をしっかりとみることから始めようと思う。

豊田みよし地区（豊田市栄養教諭研究協議会）

「栄養素について考え、自分の食事をコーディネートできる生徒の育成」

—家庭科・学級活動の授業とMY弁当の取組を通して—

豊田市食生活状況調査より、「栄養バランスを考えて食べる」生徒が27%と少なかったことから、自分の体に必要な栄養素と食事を考え、実生活に生かすことが出来る生徒の育成を目指した。生徒がなりたい自分の姿を明確にし、そのために必要な栄養素を調べて、調理したり工夫した点を意見交換したりする場を学校行事である「MY弁当の日」を含めて3回設けた。その結果、必要な栄養素や適切な食事を意識して食べる生徒を増加させることができた。

指導助言者

西尾市立鶴城小学校

栄養教諭 丸山真奈美 先生

愛知県教育委員会保健体育課

指導主事 平林 加奈 先生

研究発表・質疑応答後、「主題設定、生徒像、仮説、手立て、分析の筋が通っているか」、「この研究を栄養教諭が行うことでどのような成果があったか」という点についてグループに分かれて協議を行いました。各グループからは以下のような意見がありました。

- 研究の主題が広くあいまいだったので栄養バランスが適切な量、どちらかに絞って進めると筋が通るのではないかと。
- Excel を活用して推定エネルギー必要量を知るところは栄養教諭の関わりとしてよかった。家庭科から発展させて適切な量について学習することができた。



協議後に、指導助言の先生方からは以下のご指導がありました。

研究は、「子どもを健康にするため」「教師が育つため」「人に広めてまねして実践してもらうため」に行く。人に伝えるためには、分かりやすい言葉の設定が必要。筋を通すためには、実態把握がとても大事。実態が見えると課題が見つかり、仮説や手立てへつながっていく。実践前に仮説をよく考え、評価基準も設定することにより、仮説の検証につながる。「この子にこんな声かけをしたらこうなるだろう」という意識をもって日々の指導を行ってほしい。

研究発表と分科会を通して、研究を進めていくうえで、計画の大切さや実態把握をすることの大切さを実感したという感想が多くありました。

生徒が力を付けるために、栄養教諭や担任がどのように指導したら効果が上がるのか考え、計画を立て進めることが大切だと改めて感じた。また、チーム学校として共通理解を図るために、難しい言葉や抽象的な言葉を使うのではなく、誰にでもわかるような具体的な言葉を使って説明することが大切だと感じた。今後は、計画立案に重点をおき食育を進めていきたい。

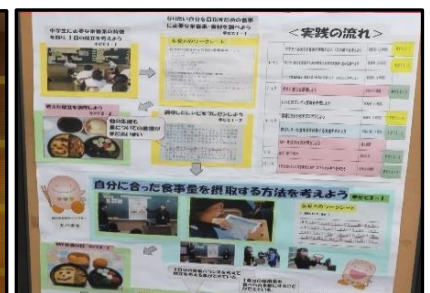
なりたい自分を目指すための調べ学習や自分に必要な栄養量の計算など、生徒が自分事として考えることができる実践でとても参考となった。今後は、子どもの実態に即した内容で、子どもたちが自分事として考え、食生活の中に取り入れられるような、実践力を付けられる取組を行っていきたい。

展示

各分科会会場で中島地区と豊田みよし地区の取組内容を紹介した展示を行いました。展示を見学し、「取組内容を具体的に知ることができて、とても参考になる」と会員からの感想がありました。



<中島地区>



<豊田みよし地区>